

みんなの家は今

熊本地震後、町内の仮設団地に整備された30棟の「みんなの家」。
住宅の再建に伴い仮設団地は徐々に集約・閉鎖され、
役目を終えたみんなの家は現在、町内各地に移設し活用されています。



みんなの家は、コミュニティ構築のための大事な施設です。東日本大震災の教訓として、熊本地震の際にはいち早く一斉に整備されたと聞いています。

私が自治会長を務めたテクノ仮設団地には6つの工区があり、それぞれにみんなの家がありました。「みんなが集える場所がある」。このことが一番良かったと思います。みんなの家で日々行われるたわいもない雑談や手芸・お花教室などを通じて、今まで面識がなかった人たち同士で痛みの共有ができ、さらに孤立化予防につながり、仮設団地住民の絆が深まったと思います。

仮設団地での役目を終えたみんなの家が、町内各地で再活用されていると聞き、とてもうれしかったです。私は、被災したもののだけが震災遺構ではないと考えています。町内各地に移設されたみんなの家の利用を通じて、熊本地震の記憶が語り継がれていくことを願っています。



元テクノ仮設団地自治会長
よしむらしずよ
吉村静代さん